

No.249

2021年
6月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館
〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 6月24日(木)まで

★メイン展示

「雨の日の過ごし方」

例年より早く梅雨入りした今年は、お家にいる時間も長くなるのではないのでしょうか。そこで今回の展示は「雨の日の過ごし方」と題して、

- ・雨の日に読みたい本
- ・そろそろ衣替え
- ・コトコト手仕事

という3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

「今の空から天気を予想できる本」「雨の自然史」
「衣類の洗濯・収納・お手入れ便利帖」「ちいさなお直し」「雨ふる本屋とうずまき天気」ほか

★サブ展示

「お口の健康」

6月4日～10日は「歯と口の健康週間」です。人生100年時代、健康な歯を維持したいものですね。そこで、歯と口に関する本を集めてみました。

●サブ展示図書(抜粋)

「歯と歯みがきのひみつ」「図解介護のための口腔ケア」「感染症時代のマスクの教科書」

ありがとう エリック・カールさん

絵本作家のエリック・カール氏をご逝去されました。彼の描く色とりどりの絵本は世界中の子どもたちに愛されてきました。そこで追悼の意を表して数々の絵本を集めてみました。子どもから大人まで多くの方に触れていただきたい絵本です。



●展示図書(抜粋)

「はらぺこあおむし」「えをかくかくかく」
「ありえない!」「きみのすきなどうぶつなあに?」

読み聞かせを
しています



図書館では毎週水曜日15時30分から16時30分までの間、子どもたちに読み聞かせを行っています。昨年は新型コロナウイルス感染対策のため中止していましたが、春から再開しています。



マスクの着用、検温の実施、手指消毒など感染対策を行ったうえで開催しておりますので、みなさまのお越しをお待ちしています。

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

東京ディストピア日記

桜庭一樹 著
河出書房新社

作家・桜庭一樹さんがコロナ禍の東京での自身の日常を2020年1月から1年間綴った日記。日本や世界での出来事も一緒に記されたアーカイブ的な作品でもあります。

マスク着用・“三密”を避ける・ステイホーム…。コロナ以前とは激変していく日常を手探りで過ごした1年間。読みながら自分もあの時こう思っていたなあと思い出され、エピローグでの著作からのメッセージが心に残ります。

(山口)

(児童)

カブトムシの音がきこえる

小島渉 文/廣野研一 絵
福音館書店

「カブトムシの幼虫たちは、なにを食べているの?」「土の中にいる間“群れ”をつくり暮らしているってホント!？」

都会の公園のかたすみ、地下を舞台に卵から幼虫そして成虫までのカブトムシの一年を月を追って紹介。知っているようで知らなかった生態の秘密や疑問、その魅力に迫る。子どもの好奇心はもちろんのこと、大人が読むと童心に返れるワクワク感満載の一冊です。

(檜田)

(一般)

絵本のお菓子

太田さちか 著
マイルスタッフ

ヘンゼルとグレーテルに出てくるお菓子の家、大きな卵で作ったフライパンで焼くぐりとぐらのカステラ。

そんな絵本の中に登場するお菓子を食べたいと思ったことはありませんか?

みんなが食べたい再現レシピや絵本の紹介が一つになっているとってもお得な一冊。

おうち時間が増えた今、親子で一緒に作ってみませんか?

(岡村)

(児童)

ぼくのがっこう

鈴木のりたけ 著
PHP研究所

毎日、同じ学校ではつまらない!だったら、こんな学校あったらいいな!と思いませんか?

いりぐちに、たき!げたばこにとりが!校長先生を探せ!など、ワクワクする学校がつまった一冊になっています。

その中から、行ってみたい学校を見つけてみて下さい。

きっと、毎日の学校が楽しくなるのではないのでしょうか。

(尾崎)

インサイド聖火リレー 松澤まり子

山下さんからバトンを渡されました松沢です。こんにちは。今月は前月号の続きである聖火リレーについてお話したいと思います。坂本図書館の「図書館だより」で随筆を書かせていただいている山下さんとわたしが、同じ日に聖火を持ち感慨深いものがあります。さくら随筆始まって以来のコラボレーションです！また、走行前など同じ悩みや情報を共有でき、心強く嬉しかったです。

全ては東京2020オリンピック聖火ランナーデスクからのメールで始まった。応募するのもメール。おめでとうございます！ランナーに選ばれました、とお知らせがきたのもメール。そして本当に走るかどうか、メールからのリンクでサイトに飛んで、あなたが走るようでしたら「I RUN (わたしは走る)」という箇所を押して、走行意志を伝える。2年前、ぼちっと押した。おお本当に聖火ランナーとして走れるんだという気持ちで。

2年後の春、わたしは悩んでいた。一応、再度のランナー希望のメールでぼちっと「走ります」を再び押したものの2年前とは事情が違い、何よりこの時期だ。オリンピック開催には賛否両論がある。(6月の現在でも)

わたしは高齢者の母と同居しており感染には非常に気をつかう。仕事でも感染しないようにと毎日を過ごしている。仕事関係の会合は2年前の春からずっと中止のまま。だから出張も2年ほど行っていない。それにわたしの走行地は四万十市。仕事で事情もあり、と悩みマックス120%の肌寒い春のある日、青空の下を野球選手がカーンとホームランを打つように「やるか」という気になった。

わたしを知る人がわたしが聖火リレーで走ると聞いたら応援してくれるんじゃないだろうかという気持ちからだった。4月号に書いたように、人は人をつなげる、と思いはじめたことも理由のひとつだ。SNSで聖火リレーの反対意見などを読むたびにこたえた。反対派のお友達は離れていくかもしれない。だが反面、何らかの形でわたしが走るのを見たら喜んでくれるかもしれない、とも思った。実際そう言ってくれたお友達もいたことが支えになった。父が生きていたら、たぶん、走ったらええやか、と言うに違いないとも思った。

一応、中村じゃなくて宿毛で走れないか、とランナーデスクにメールで問い合わせしてみたが、場所は変えられないとのこと、まあ、いっか、という気になり2週間前から当日持参す

るよう指定された健康状態・体温チェックシートなるものをつけ始め、いざ走るとなると練習しなきゃ！と仕事の後、ちょっとだけ走ったりして練習した。

走行前日はなかなか眠れなかった。皆そうだったかもしれない。集合場所は中村の安並の運動公園の武道館で、午後1時集合だった。オリンピックは応援に行けないから聖火の応援に行くと友人2人が車で中村に送ってくれ応援もしてくれた。あとで知ったのだが土佐清水と宿毛のランナーの皆さんも同じ場所に集合で、走行した後もそこに帰り解散となるのだった。集合場所で山下さんに会い、知った顔を見るとほんと安心するものだった。さて、武道館では本人確認をし健康チェックシートを見せ体温を計ってもらい、いただいたユニフォームに更衣室で着替え説明や注意を聞き、という風に時間は過ぎていくのだが、運営さんの感染対策がばっちりなので大変感心し見習わなきゃ、と思った。

緊張がほぐれ始めたのは武道館を離れていざランナー用のバスに乗り込むという時、ランナーひとりひとりが玄関に向かうのだが、運営さんたち全員が拍手で「がんばって」と送り出し気持ちが高揚していくのだった。それぞれのトーチはバスの前方にちゃんと木枠に入れられて取り出される番を待っていた。わたしは7番めだったのだが、あつという間に番が来た。後方のランナーを少し待つために前方で待つのだ。待っているわたしの横をスポンサーのコンボイと呼ばれる大型車が何台も走り過ぎていく。それに乗っている人や周りで走り踊ったりする人々が「ランナーさん頑張ってください！」と応援してくれる。とても気持ちがよかった(笑)そして運営のお兄さんがトーチの下からパカッとガスを詰め、いざ走る時がやってきた。歩道にいる母や母の友達やメーカーさんや友達や見知らぬ人々に「行ってきます」と言い、タッタターとトーチキスの場所に行き前のランナーから火を受けて走り始めた。

その日は快晴だった。歩道のマスク姿の皆さんが「がんばって～」と手を振って応援して下さることにとっても嬉しくありがたく「ありがとうございます」と言いながら走った。人っていないな、と心底思った。横と一緒に走る運営の方に2度も「もっとゆっくり走って下さい」と言われた。(笑)感染対策ばっちりな運営さん達のおかげで感染などしなかった。やれやれ。(2週間後辺りで感染したら連絡して下さいとマニュアルにあった)

何はともあれ、2021年は誰にとっても忘れられない年となったのは言うまでもない。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「まちづくりと図書館」 大串夏身
 0 「あの人が好きって言うから…有名人の愛読書50
 ブルボン小林
 1 「本当に頭がいい人の思考習慣100」 齋藤孝
 1 「13歳から分かる！プロフェッショナルの条件」
 藤屋伸二
 2 「山と高原地図GUIDE日本百名山」
 2 「せとうちの風景・心の旅」
 本州四国連絡高速道路協会
 3 「フリーランス六法」 フリーランスの働き方研究会
 3 「在宅ひとり死のススメ」 上野千鶴子
 3 「マンガでわかるLGBTQ+」 パレットーク
 3 「先生のためのがんばりすぎない技術」江越喜代竹
 4 『「数学をする」ってどういうこと？』小山信也
 4 「散歩で見つける薬草図鑑」 指田豊
 5 「隈研吾建築図鑑」 宮沢洋
 5 「きものを着たらどこへでも」 山崎陽子
 6 「ペットボトルからはじめる水耕栽培とプランター
 ー菜園」 はたあきひろ
 7 『「ピアノ習ってます」は武器になる』大内孝夫
 7 「大人のソロキャンプスタイル。」
 8 「日本語とにらめっこ」 モハト・マル・アブティン
 8 「令和時代の公用文書き方のルール」 小田順子
 9 「万葉集の基礎知識」 上野誠
 9 「東京ディストピア日記」 桜庭一樹
 9 「赤の呪縛」 堂場瞬一

※左側の数字は図書の分類を表しています。

0…総記、1…哲学、2…歴史、3…社会科学、4…自然科学
 5…技術、6…産業、7…芸術、8…言語、9…文学

児童図書



- 「おかねってなあに？」 澁澤健
 「しばわんこの和のおもてなし」 川浦良枝
 「教科で学ぶSDGs学」 稲葉茂勝
 「ざんねないいきもの事典 ますます」 今泉忠明
 「日本サンショウウオ探検記」 関慎太郎
 「おれは女の子だ」 本田久作
 「神さまの通り道」 村上しいこ
 「帰れ野生のロボット」 ピーター・ブラウン
 「春のウサギ」 ケヴィン・ヘンクス
 「ゴリラとわたし」 フリーダ・ニルソン
 「モノのなまえ事典」 杉村喜光
 「鳥になった恐竜の図鑑」 真鍋真
 「1ねん1くみの女王さま」 いとうみく

絵本



- 「まいごのたまごにいちちゃん」 あきやまただし
 「ひえひえひんやりツアー」 楠章子
 「どろんこおぼけになりたいな」 内田麟太郎
 「ぼくのがっこう」 鈴木のりたけ
 「ぼくとがっこう」 谷川俊太郎
 「おやまでテント」 ゆーちみえこ
 「ポポくんのひみつきち」 accototo
 「ぴぼん」 内田麟太郎
 「ぱくぱくはんぶん」 渡辺鉄太
 「クマとこぐまのコンサート」 デイビット・リッチフィールド

★このほかにもたくさんの図書が入っております。

図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、そちらもぜひご覧ください。

6月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日 10:00～18:00

ホームページ <http://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

■は休館日